



地域医療連携だより

かまんざ



② 新年のご挨拶

院長 小林 裕

地域医療連携・入退院支援室長 副院長 魚嶋 伸彦

③ 脳卒中市民公開講座を開催

④ Red Crossニュース

スクラムを組む医療従事者たちVol.7 循環器内科

自己免疫疾患センター開設

⑥ お知らせ

糖尿病内分泌・膠原病内科の独立、X線骨密度測定装置の導入
LINE公式アカウント開設、右京医師会合同症例検討会のご案内

当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ

地域医療連携係  075-212-6186

平日 8:30~19:30
土曜日 9:00~13:00

新年のご挨拶

各診療科の特性を發揮し、地域に根付いた医療を提供してまいります



院長
小林 裕

新年あけましておめでとうございます。皆様には令和6年、よいお正月を迎えたこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染が発生して4年になりました。昨年5月に第5類へ変更され、一般診療の一つとしての位置づけとなりました。しかし、今後ももう少し慎重な経過観察は必要かと思っています。

さて、当院は昨春から休日・時間外において、救命救急センターでの時間外選定療養費の徴収と病院代表電話の自動音声対応を導入させていただいている。本来の救急医療業務にさらに集中できれば、と思っていますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。また、今年度から乳腺外科を独立させ、乳

腺診療にも今まで以上に注力しています。さらに今年1月から膠原病内科を独立、自己免疫疾患センターも立ち上げました。新型コロナウイルス感染流行中にやむなく診療制限した科もありましたが、今は解除できています。以前同様にぜひ多くの患者さんのご紹介をよろしくお願ひいたします。

また、4月からは医師の働き方改革が開始され、当院の一部診療科では時間外勤務の上限規制が年1860時間となるB水準を申請しております。医療の質を担保しながら、働き方を変えていくのは容易ではありませんが、覚悟を持って取り組む所存です。

外来診療は極力特殊専門外来に特化し、救急医療、がん診療や特殊専門医療の入院診療に注力して、地域の医療・介護機関さんとさらに連携を強めていきたいと考えています。当院の理念である「歩みに入る人にやすらぎを　帰りゆく人に幸せを」を達成すべく、「安全で質の高い医療をこの地で継続して提供」することを使命と考え、新病院建設も視野に、地域での役割を果たしていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願ひいたします。



情報発信を積極的に行い、医療機関との連携強化に努めてまいります



地域医療連携・入退院支援室長
副院長
魚嶋 伸彦

2024年の新年を迎え、ご挨拶申し上げます。コロナ禍が収束の兆しを見せているものの、未だ感染者が散発し、インフルエンザなどの大流行も続いており、地域の先生方は引き続き大変多忙な診療に従事されていることをお察し申し上げます。そのような中でも昨年は多くの患者さんを当院にご紹介いただき、心より感謝いたします。

2023年においては、地域医療連携・入退院支援室として地域の先生方や医療機関様との情報共有、医療連携の強化に取り組んでまいりました。当院ホームページに地域連携ニュース欄や「かまんざ」誌を閲覧できる欄を設置し、新たな情報がある際にタイムリーに号外も別途発行し、また登録医の先生方には定期的にメールニュースを配信してきました。2024年も引き続き積極的な情報発信を実施いたしますので、最新記事をご確認い

ただければ幸いです。

また、当日緊急受診依頼に対する迅速な受け入れ態勢の構築に努めてまいりましたが、2023年は当日緊急受診の依頼が増加し、その結果としてお引き受けできなかったケースも増えたことを認識しています。この問題を解決するため、2023年11月より各診療科の救急対応医師が緊急対応用PHSを常時携帯し、緊急患者受け入れ態勢を刷新しています。より多くの患者さんを受け入れられるよう、引き続き努力してまいります。さらに、一昨年より開催している各医師会様との症例検討会も本年も継続いたします。各診療科が協力し、充実した意義ある検討会となるよう努めておりますので、多くの先生方のご参加をお待ちしています。

最後にLINE公式アカウントを開設したことを報告させていただきます。LINEを通じて患者さんに直接病院の情報や医療情報を発信していきます。皆様の医療機関に通院されている患者さんにぜひ紹介していただければありがたいです。これらの取り組みを通じて、2024年も地域医療機関様との連携を一層深め、患者さんにとってより良い医療を提供できるよう努めてまいります。これまで以上にご指導・ご支援をいただきますよう、何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

脳卒中月間に 市民公開講座を 開催しました

毎年10月29日は「世界脳卒中デー」です。この時期は、世界脳卒中機構 (World Stroke Organization: WSO) の呼びかけにより、世界中で脳卒中の啓発活動が行われます。日本では、日本脳卒中協会が毎年10月を「脳卒中月間」と定め、各地で市民公開講座や世界脳卒中デー・ライトアップイベントが行われました。

京都では当院も共催に加わり、2023年10月28日に京都府医師会館で市民公開講座を開催しました。今回は「脳卒中予防と患者支援」をテーマにそれぞれ2演題ずつの講演があり、脳卒中に関心のある市民の方々約40名が参加されました。

前半の「脳卒中予防」では、当院の第2検査部長 井上啓司先生が心原性脳塞栓症の最大の原因である心房細動について、アブレーションを含めた不整脈治療を専門とする立場から講演しました。

続いて、京都府健康福祉部 健康対策課 熊谷聰子先生が、管理栄養士の立場から全ての脳卒中予防の基本となる食生活改善、特に「適塩」について講演されました。ちなみに本講座に先行して10月25日にはNHKの番組「ニュース630 京いちにち」で脳卒中予防が取り上げられ、“京の推しレシピ”的のコーナーでは、熊谷先生が講演で紹介された「きょうと適塩プロジェクト」と連携したレシピが紹介されました。私も脳卒中予防を呼びかけるため、出演いたしました。



脳神経内科部長／脳卒中センター長

(日本脳卒中協会 京都府支部長)

永金 義成



後半の「患者支援」では、当院のリハビリテーション課 作業療法士・中澤健一先生が、脳卒中急性期から行われる早期リハビリテーションについて、実際の映像を交えて講演しました。最後は、京都大学医学部附属病院 脳卒中療養支援センターを代表して、医療ソーシャルワーカー・榎戸真弓先生が、脳卒中療養支援について講演されました。2022年から主な一次脳卒中センターに「脳卒中相談窓口」が設置されたことや、脳卒中患者やその家族を支援するための病院間・多職種間のネットワークが構築されつつある現状が紹介され、今後さらに整備されることが期待される内容でした。

当院では正確な情報発信を
継続してまいります

コロナ禍を経て社会のデジタル化が大きく加速したことにより、オンラインの市民公開講座のあり方も変わりつつあります。しかし、不確かな情報を含むおそれのある情報過多時代にあって、専門家が正しい情報を提供する場として今回のようないく市民公開講座を開催する意義はあると思います。講演に続く質疑応答では、参加者から活発な質問がありました。参加された方それが、何らかのメッセージを持って帰られたのではないかと信じて、今年も10月に脳卒中市民公開講座を開催したいと考えています。





当科の診療症例の多くは、近隣の医療機関の先生方からご紹介いただいた患者さんです。中でもご高齢の患者さんは、進行した動脈硬化性の血管病変(石灰化病変)、心機能低下、心房細動などの不整脈に、腎機能低下、貧血などの全身性疾患や悪性腫瘍などを合併していることがまれではなく、治療方針の決定には慎重な判断が求められます。

私たち循環器内科は、かかりつけ医の先生方からいただいた情報をもとに、患者さんとご家族のご意向を踏まえて、心エコー/CT/心筋シンチグラフィーなどの精査ならびに医学的根拠に基づいた薬物療法を施行し、必要となれば安全性を重視しつつ、最適/最新のデバイスを駆使したカテーテル治療で対応しています。



新たな冠動脈/下肢動脈カテーテル治療デバイスの導入

これまで高度石灰化を伴う冠動脈病変に対しては、ロータブレーティングなどの切削デバイスを積極的に使用し、ステント拡張不良や出血リスクが危惧される場合にはあえてステントは留置せずに、薬剤溶出バルーンによる薬剤塗布で対応してきました。

このたび、冠動脈治療用のバルーンから音圧波を発生させ、その衝撃波により冠動脈の石灰を選択的に破碎することができる全く新しい作用を持つ「IVLカテーテル」(図1)が当院でも使用可能となり、既存の切削デバイスと使い分けることで、より安全で効果的な冠動脈カテーテル治療が可能となっています。

一方、高度石灰化を伴う下肢動脈病変に対する切削デバイス(図2)も本邦でもようやく使用可能となりました。先端のカッターが高速回転することで石灰を効率よく切削し、切削時に生じるデブリスを持続吸引できるデバイスで、当院でも薬剤溶出バルーンと併用することで、大きな効果を上げています。

写真提供:ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社 ▶

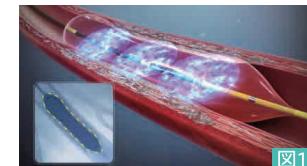


図1 放射状に配置されたプレートが1分間に約7万回転



図2



自己免疫疾患センターを開設いたしました

自己免疫疾患は免疫が自分自身の臓器を攻撃することで発症する疾患群で、ほぼすべての診療科において診療が行われています。自己免疫疾患は多臓器が同時に侵され、また複数の自己免疫疾患が重複することも多いため、診療科間の連携が非常に重要になってきます。

一方で近年、自己免疫疾患に対する分子標的治療薬(生物学的製剤やJAK阻害薬など)が次々と登場しており、治療の専門化が進んでいます。当院は高い専門性を有する診療科がそろっており、また診療科間の垣根が低いことから自己

膠原病内科 医長
茎田 祐司



免疫疾患診療を得意としています。特に関節リウマチ、潰瘍性大腸炎、クローム病、乾癬は、共通する分子標的治療薬を用いることが多く、普段から膠原病内科、消化器内科、皮膚科は密に連携しています。

これらの疾患が疑われる患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞ当院までご紹介ください。他の診療科とも自己免疫疾患の診断・治療について情報共有し、互いにコンサルトしやすい環境を作っておりますので、上記以外の自己免疫疾患患者さんもぜひ当院にご紹介をよろしくお願いいたします。

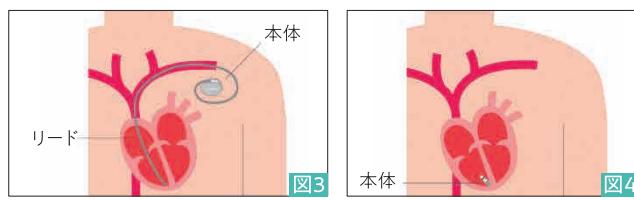


不整脈関連の治療デバイスの導入

リードレスペースメーカー

不整脈の一つに脈が遅くなる徐脈があります。徐脈の治療として使用されているのはペースメーカーです。従来のペースメーカーは鎖骨の下の皮膚にポケットのような場所を作り、ペースメーカーの本体を植え込みます。そこからリードと呼ばれる電線を、静脈を経由して心臓に到達させます(図3)。ペースメーカーは心臓の心拍数を監視して、異常が起こると電気刺激を心臓に送り、徐脈にならないようにします。

一方、リードレスペースメーカーはカテーテルを用いて心臓内に本体を送り込み、直接心臓に留置することができます(図4)。そのため従来のペースメーカーに存在したポケットの感染症、リードの血管への癒着、リード断線などの問題がありません。リードレスペースメーカーは徐脈性心房細動の患者さんが適応でしたが、心房と同期する機能が備わるようになり、適応がさらに拡大しています。



リード付きペースメーカー
リードレスペースメーカー
画像提供:メドトロニック社

皮下植込み型除細動器(以下:S-ICD)の植込み

植込み型除細動器(ICD)とは心停止の原因となる不整脈が発生した場合に電気ショックを行い、正常の心拍に戻す機器です。現在、経静脈植込み型除細動器(以下:経静脈ICD)とS-ICDの2種類があります。

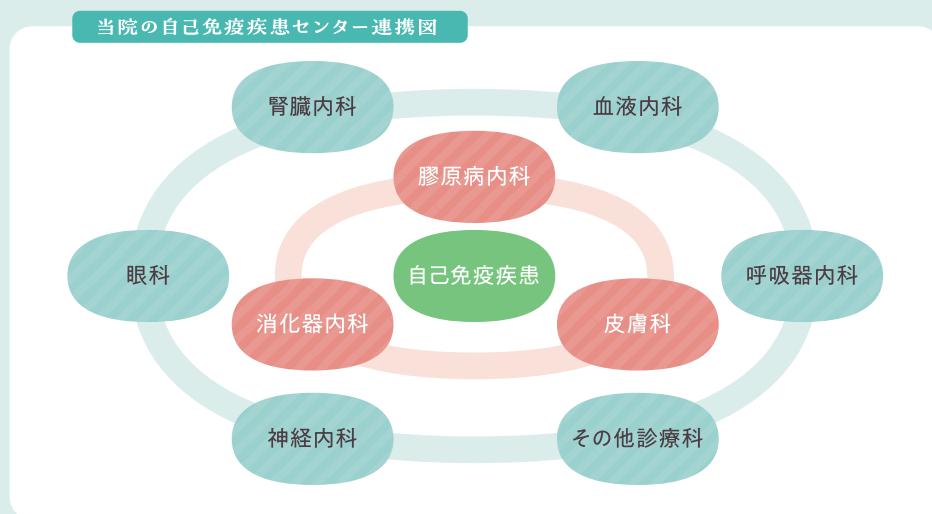
経静脈ICDは、心臓や血管内にリードを留置する必要があるため三尖弁逆流や心タンポナーデなど合併症の問題と、遠隔期に感染した際に経静脈ICDの抜去が困難であるという問題がありました。しかし、S-ICDは合併症の軽減、感染のリスクの減少、将来的に感染や不具合が生じた場合も抜去が比較的容易であるという利点があります。ただ、徐脈に対するペーシングができない、心室頻拍に対する抗頻拍ペーシングができないという欠点もあるため、当院では慎重に適応を判断させていただいている。



かかりつけの先生方と共に切れ目のない診療に取り組みます

一般に動脈硬化性疾患、心不全を代表とする心血管疾患は増悪寛解を繰り返すため、カテーテル治療後も長期にわたる経過観察が必要なので、地域のかかりつけの先生方と一緒に連携し、切れ目のない診療に努めています。

また連携先の先生方を対象として「釜座循環器懇話会」を開催しておりますので、ご興味のある先生方はぜひ、当院の地域医療連携室にご連絡ください。



京都市における
自己免疫疾患診療の
拠点として貢献
してまいります

◆ 糖尿病内分泌・膠原病内科が 「代謝・内分泌内科」と「膠原病内科」に分かれました

2024年1月1日より、これまでの「糖尿病内分泌・膠原病内科」から、「代謝・内分泌内科」と「膠原病内科」として診療科を立ち上げることになりました。ともに高い専門性も持って病診連携の中心となり、かかりつけの先生方と地域の診療レベルの向上に努めてまいります。



◆ 骨密度測定装置の最新機を導入しました



ホロジック社製 X線骨密度測定装置「Horizon Wi」

当院では、DXA法による精度の高い腰椎、大腿骨、全身の骨密度を測定できる最新の装置に更新いたしました。従来の装置より、安全性の向上および高精度で骨密度の測定が行えます。また、骨質の評価も可能となりました。

対象の患者さんがいらっしゃいましたら当院までご連絡ください。



特徴・
メリット

- 検査時間は約10分で痛みがない検査
- 被ばく線量は胸部X線撮影の約7分の1
- 骨質の評価も可能

◆ LINE公式アカウントはじめました

京都第二赤十字病院の「LINE公式アカウント」を開設しました。「友だち追加」をしていただいた方には、当院の最新医療情報や公開講座などのご案内をお届けしてまいります。

ぜひよろしくお願ひいたします。



右の二次元コードを読み取って、
「友だち追加」してください♪



◆ 「第3回 右京医師会合同症例検討会」を開催します

右京医師会合同症例検討会を下記日程で開催いたします。

日時 2024年2月17日(土) 14:00~15:30

場所 右京医師会館

